

旧青森保健所において実施した 「成人歯科保健実態調査」について

村上 明継¹⁾ 山田 淑子¹⁾ 北田 純代²⁾
笹 けい子¹⁾ 篠崎 朝子¹⁾ 鎌田 明美²⁾
福嶋 眞樹¹⁾ 長尾 貞子¹⁾ 成田 幸子¹⁾
反町 吉秀¹⁾ 山中 朋子¹⁾

1) 青森県東地方健康福祉こどもセンター保健部（東地方保健所）

2) 青森県上北地方健康福祉こどもセンター保健部（上十三保健所）

Key Words : ①歯周疾患検診 ②成人歯科保健 ③質問調査 ④口腔内実態調査

I. はじめに

わが国においては、住民は成人期以降、歯周疾患によって歯を失い、老後の食生活等に大きな支障をきたしている現状にある。歯周疾患の発生・進行を防止するためには、定期的な歯科健診の受診が効果的であるという研究結果を受け、旧青森保健所管内においても成人歯科健診の促進を図ってきたが、老人保健法による歯周疾患検診を実施している市町村は少なく、受診率はわずか0.1%に低迷している。

II. 目的

本調査は、前記のような現状を受け、旧青森保健所管内住民の歯科保健に対する意識や口腔内の状況等を調査し、管内における成人歯科保健対策、特に歯周疾患検診推進のための基礎資料とすることを目的として実施した。

III. 研究方法

1. 質問調査及び口腔内実態調査

- 1) 研究対象：管内市町村が実施する複合健診のうち、旧青森保健所が指定した日に受診した者で、調査の趣旨について説明を受け、自ら調査に協力した者等471人（男131人、女340人）を対象とした。平均年齢は58.2歳（男62.6歳、女56.6歳）であった。
- 2) 実施方法：質問調査は、対象者の自己記入又は調査者の聞き取りにより実施した。口腔内実態調査は、質問調査に引き続き、保健所歯科医師が口腔診査を行う形で実施した。
- 3) 質問調査と口腔内実態調査との関連については、Mann-Whitney のU検定を行った。

IV. 結果

1. 質問調査について

歯間清掃用具を使う人は30.8%であった。自分の歯と口の状態に何らかの不満のある人は72.8%で、不満の内容は「食べ物が歯と歯の間にはさまる」が53.6%と際立って多かった。この1年間に歯石除去を受けた人は26.5%、歯みがきの個人指導を受けた人は16.6%であった。市町村が有料で実施する歯科健診を受診したい人は79%、受診したくない人は20.4%であり、受診したくない理由は「歯科医院で定期的に受けているから」が26%と最も多く、以下「めんどうだから」、「必要ないから」、「お金がかかるから」と続いていた。住民が受診したくなる歯科健診の実施方法を尋ねたところ、「無料にする」が44%と最も多く、以下「歯科医院で受診できる」、「早朝、夕方、休日等いつでも受診できる」「結果をきちんと説明してくれる」と続いていた。「歯の健康」に関する学習会等に参加した人はわずか6.6%であり、「8020運動」を知っている人は38.4%、「健康あおもり21」を知っている人は10.2%であった。

2. 口腔内実態調査について

前述のとおり平均年齢は58.2歳で、う蝕歯のある人は91.5%、そのうちう蝕歯の処置を完了した人は74.5%であった。喪失歯のある人は83%で、そのうち補綴を完了した人は82.4%であった。現在歯数は20.9本であり、年齢階級別にみると加齢につれて減少し、それに伴って現在歯を20本以上保有する人の割合は減少し、1～19本保有する人の割合が増加していた。歯肉の状況については、C P Iスコア「0」が8.3%、「1」が15.3%、「2」が31.6%、「3」が30.2%、「4」が4.3%、「対象歯なし」が10.4%であった。年齢階級別にみると加齢につれて高いスコアの人と対象歯なしの人の割合が増加していた。加齢とともに喪失歯数と中等度以上の歯周疾患の人の割合は増加し、軽度の歯周疾患の人の割合は減少していた。

3. 質問調査項目と口腔内実態調査の関連について

歯間清掃用具を使っている人は使っていない人よりも現在歯数・処置歯数が有意に多く、未処置歯数・喪失歯数・C P Iスコアが有意に少なかった。「8020運動」を知っている人は知らない人よりも現在歯数・健全歯数・処置歯数が有意に多く、喪失歯数・C P Iスコアが有意に少なく、清掃状態が良好であった。

V. 考察

質問調査の結果によると、歯間清掃用具を使う人や歯石除去・歯みがき指導を受ける人の割合が低く、「歯の健康」に関する学習会等に参加した人の割合が少ないことから、「歯の健康」について住民が学習する機会の提供に努めていく必要があると思われる。また、歯科健診の受

診率向上のため、市町村が実施する複合健診の中に導入するなど、住民が受けやすい実施方法を検討していくべきと考える。口腔内実態調査の結果によると、う蝕歯の処置完了者率、喪失歯の補綴完了者率ともに高く、う蝕処置や補綴処置が進んでいると思われる。また、現在歯は加齢とともに減少し、その一方で歯肉に所見のある人の割合が増加することから、より一層の歯周疾患予防対策を進めるべきと考える。質問調査と口腔内実態調査の関連をみると、「歯間清掃用具を使うこと」や「『8020運動』を知っていること」が歯の喪失防止や歯周疾患の発生・進行の防止につながることを示唆された。本調査の結果については、今後、関係者や地域住民に対して積極的に情報提供するとともに、歯周疾患予防対策の推進のために活用していきたいと考えている。

VI. 文献

厚生省：健康日本21（21世紀における国民健康づくり運動）報告書，健康・体力づくり事業財団，東京，2000，23－165頁。

田村道子：成人における口腔健康習慣と口腔保健状況との関連．口腔衛生会誌55：173－185，2005。

厚生労働省医政局歯科保健課（編）：平成11年歯科疾患実態調査報告，口腔保健協会，東京，2000，29頁。

歯周疾患検診マニュアル作成委員会（編）：老人保健法による歯周疾患検診マニュアル，日本医事新報社，東京，第2版，2000，15－20頁。